

四日市の未来はここから変わる!

育児休業取得者の『パパトーク』

四日市に新風を吹かすべく立てたこの企画に快く賛同して頂いた男たち!彼らは数少ない『男性の育児休業取得者』いわば『よかパパのパイオニア』である。彼らが育休中に感じたことや子育てについての熱い思いを語っていただきました。



なぜ育休を取ろうと思いましたが?

木田: 大きな疑問もなく、制度があるなら利用しようと思って。妻とは多少制度について話していましたが、『育休取ったよ』と事後報告。取った後の周りの反応で『大変なことをしたかな?』と感じました(笑)

杉谷: 私は、妻が妊娠中に東日本大震災で被災したので、妻のストレスが気になったことと、何より家族の『絆』を大切にしようと考えました。

谷口: 女性が取るなら男性も育休を取っていいんじゃないか?と思って。また、子どもと深くかかわることが、将来的にも子どもと良い関係が作れるのでは?と考えて取りました。

岸田: 子育てサービスも提供する仕事に関わってまして、育児には興味がありました。サービスを提供する自分が子育てを体験していないのは、「自動車販売員が、運転免許証を持っていない」様なものだと思います(笑)

司会: 皆さん、自ら積極的に育休を取ろうと決断されたんですね!やはり、『やらされる』のではなく、『自らやる』と言う気持ちが大切ですね。

育休取得を決め、周囲の反応は?

木田: 女性の多い職場なので、育休には理解があり、快く取ることができました。後で聞いた話ですが、職場では男性が抜けた穴を埋められるか心配されていたようです。

杉谷: 上司には早めに相談しましたが、最初は『君が職場抜けると工場止まっちゃうよ』と言った雰囲気。特に、職場仲間には『育休取ります』と伝え辛く、引き継ぎが遅くなりました。パソコンやシステムのことが

苦手な方も多くて大変でした(笑)

谷口: 周囲には事前に『育休を取る』と言い続けてましたので比較的理解がありました。取得時期もある程度仕事の目処がつきやすい年度末でしたので。ただ、中には冗談だと思っていた人もいたみたいですが(笑)

岸田: 妊娠が分かった時点で職場には育休を取ることを伝えていました。育休に入るまで長い期間を掛けて準備できたので比較的スムーズに取得できました。職場の理解や配慮もあり、有難かったです。

日沖: 女性には比較的的理解されやすいみたいですね。男性の本音は『男性が育休ホントに取るの?』と思っている人もまだまだ多いんでしょうね。育休を取るポイントは、早めに『下準備』することとタイミングが重要みたいですね。

司会: 周囲への理解と協力を得るには『根回し』が重要なんですね。少しでも職場の負担が軽減できるよう配慮することが、職場復帰の時に影響するんでしょうね。

育休中の様子はどのようでしたか?

岸田: 長男の育休中は、育児をしながら、食事の準備をすることに追われてました(笑)。次男の時は、お弁当を持って子育て支援センターに行ったり、ベビースイミングに通っ

たり、生活パターンを作っていました。

木田: 支援センターなど知っていたんですが、行くきっかけとか、勇気がなくて…僕は最初はなかなか行けなかったですね。



谷口: 私は近所の公園で遊んだり、ドライブに出かけたりしてました。子どもが歩くようになると、霞ヶ浦の公園などに行き遊んでました。

杉谷: 私は長女の看病のため病院にいたので、どこにも出れなくて…です。今では毎週公園に出かけます。

大変なことは何でしたか?

岸田: 食事のことが大変でしたね。特に、メニューを考えるのが大変で。最初は同じおかずの繰り返しになってしまって。とにかく育児と食事作りで一日が終わり、他のことができなかった(笑)

谷口: そうそう、子どもが小さい頃は作り置きしたり、ベビーフードを上手く使ってたんですが、そのうち食べなくなって…。岸田さんと同じく、料理を作り続けていた思い出があります(笑)

日沖: 私も週末に料理を作ろうと思うんですが、メニューが決まらずあきらめてしまうことがありますね。

木田: 私はインターネットを利用していました。メニューが決めやすく楽でしたね。ただ、料理の組み合わせや

出来上がり時間などは難しかった。全部の調理が終わった時には最初に作った料理が冷たくなってて(笑)

杉谷：女性は計算して、料理を温かい状態で出すからすごいですよ！！

木田：同時進行が難しくって…

岸田：『これではだめだ』と思って、食材配達会社を利用したり、インターネットを利用したり、効率を考え、時間を確保できるように色々と工夫しました。

司会：食事は男性にとって大きな『壁』なんですね。けど、色々と考え段取りをして、効率化を図る。これは仕事に活かされる考え方ですね。

育休を取って良かったこと・楽しかったことは？

木田：子どもと昼寝ができること(笑)日に日に、子どもがなついてくれることが実感できました！妻が出かけても平気な娘が、僕が出かけようとすると後追いで泣いてくれました。昨日できなかったことが今日できるようになる瞬間！歩けるようになった時はホントにうれしかった！

谷口：そうですね、成長の過程を見れるのはうれしいですね。私も子どもが初めて寝返りした瞬間や歩いた瞬間を見られました。そのことを妻に伝えると悔しがってました(笑)

杉谷：育休前は仕事が忙しく子ども

の寝顔しか見られなかったんですが、育休中、24時間子どもと一緒にいられたことは新鮮でした。子どもがどんなことを考えているか分かったのも良かったです。それと、子どもが好きなアニメと一緒にゆっくり見られたこともうれしかったですね。



岸田：普段はにぎやかな息子たちですが、私の誕生日の時は、とても仲良くしてくれて、3人でのんびり過ごせました。何気ないことですが、とてもうれしい誕生日でした。

木田：良かったと言えば、女性は子育てして当たり前に思われますが、男性がちょっと子育てにかかわると、『すごいですねえ』って言われますよね！

岸田：そうですね。妻も『今日は旦那に子どもを預けてきた』と言うと『いい旦那さんですね』と言われると言っていました。

司会：育休を取らなければ体験できないことは沢山ありますよね。育児・家事に追われる中、子どもの微笑ましい光景に幸せを感じますよね。

職場では子どもの話をしますか？

杉谷：話すようにしています。机には子どもの写真が置いてあるので、通りがかった人が声を掛けてくれます。

木田：僕も子どもの話はよくします。デスクシートに子どもの写真を挟ん

であります。職場の人が子どもを見に来てくれたこともありますよ。

司会：周囲の環境を変えるためにも、子どもの話がドンドンできるといいですね。

育休を通して何を感じましたか？思いを語って下さい

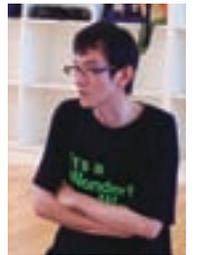
杉谷：震災の経験、出産、育休。このような様々な変化があった中、子どもとゆっくり接する時間ができ、家族の『絆』を考え直すことができました。良い経験ができました。

谷口：育休を取ることで、子どもと仲良くなれた。そして、じっくり子育てに関わることができたので、妻と育児についての大変さが共有できました。次に子どもを授かったら、育休は取りたいと思います。

木田：仕事仕事できていたので、子どものことが分からなかった。ですが、育休を取ったことで子どもの成長に関心が持てるようになりました。夫婦で協力することで、互いに仕事と家庭の両立がしやすくなり良かった。

岸田：子育ての重みを実感しました。誰にでもできそうでできないこと。子育てしている女性のすごさを感じ

ました。妻も子どもに縛られず、自由な時間ができ、感謝されています。また子どもを授かったら育休を取るつもりです。



日沖：結婚し、子どもを授かったら育休を取ります。子どもとの関係作りの大切さが良く分かりました。

木田：パパたちが少しでも子育てに関心を持つことで、ママの気持ちも大分違うと思います。一言『子どもはどう？』と聞くだけでも違うと思いますよ。

谷口：もちろん子どものため・妻のためですが、自分のためになると思いました。育児から逃げず、関わることで、大きく自分も変われると思います。

岸田：講演で『稼ぎと努め』といった話を聞きました。『稼ぎ』は対価を得ることですが、『努め』とは社会貢献。育児とは正に『努め』であり、父親の果たさなければならない役割があるのだと思います。この子育て情報誌に協力することも含め、世のパパに『ちょっと育児に参加しませんか』と伝えることも私の『努め』だと思っています。

パパトーク出席者(敬称略・五十音順)

岸田：長男・次男と二度の育休を取得した『子育てマイスター』

木田：愛娘をこよなく愛する優しい『ほんわか』パパ

杉谷：震災を乗り越え、家族の『絆』を確かめた二女のパパ

谷口：子どもとのドライブが大好きな『マイペース派』パパ

日沖：子どもが大好きな独身者。未来の『よかパパ』予備軍

加藤：司会。YPS-projectメンバー。二児の『子育てマイスター』